

シンプル・イズ・ベスト

～シンプルな安全システムで「安全性と生産性の両立」を実現～

“「危険源」を作らない・排除する・隔離する”

この抜本的な安全方策を考えたライン作りのもと

「どうしても人と機械が介在してしまう場所にのみ安全機器を使用する」といった

シンプルな安全方策でシンプルな安全システムを作りあげる。

パナソニック デバイスSUNXは、このシンプルな発想のもと、生産効率の低下を招かない安全システムを必要最小限の安全機器・安全方策でご提供いたします。

「労働環境の安全をしっかりと確保してこそ、安定した生産が可能になる。」

この欧州から発信された安全文化の思想に基づき、国際安全規格ISO 12100を始め、

厚生労働省から発令された「機械の包括的な安全基準に関する指針」により、

日本にも国際レベルの「安全確認型システム」が、急速に浸透してきています。

この「安全確認型システム」を構築するために必要不可欠なのが、

ライトカーテンやセーフティスイッチ、これらを統合して

コントロールするセーフティリレーユニットなどの安全機器です。

しかし、安全機器には、コストアップ・作業効率の低下・設計の複雑化などのイメージがあります。

それは規格や対策作りのみに捉われ、肝心の労働者の意見が後回しとなり、

本当に必要な安全方策を見失ってしまった結果です。

そこで、パナソニック デバイスSUNXでは、より根本的なところから安全方策を考え、

「シンプルでユーザビリティ(使用者主体)にたった安全回路の提案と提供」を

企業テーマとして、安全文化の成熟を目指します。

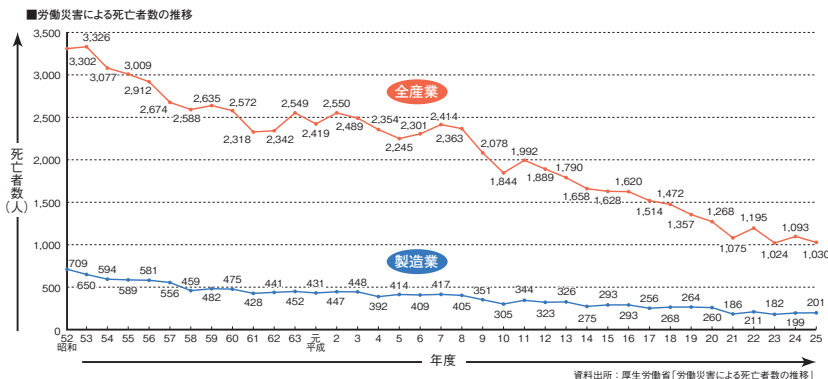
そして、あらゆる労働環境の「安全性と生産性の両立」を実現します。

労働災害の実状

労働環境における「安全」は、そこで働くすべての人の願いであり、もっとも優先されるべきテーマです。

しかし、製造業における休業4日以上の死傷災害は年間約2.8万人におよび、労働災害全体の2割強を占めます。

死亡災害に関しても、近年では大幅な減少傾向は見られないのが実状です。



世界中で安全に関する法規が整備され、リスクレベルに応じた安全設計が求められています。

労働環境の「安全」はそこで働く人々すべての願いであり、また、働く人々への安全配慮義務の遂行は事業者、機械設計者の責務です。

『人は間違いを犯す』『機械は故障する』という国際基準の一般原則を前提とした安全設計を実施するにあたり、労働安全衛生法(二十八条の二)にてリスクアセスメントの実施が努力義務として定められました。

リスクアセスメントとは、リスクの診断を行ないその大小に応じた適切なレベルの安全方策を実施するための手法であり、すべてのリスクを洗い出し優先順位を持って方策を実施していくことを目的とする、いわば安全設計のスタートラインともいえるものです。

また、リスクアセスメントを実施し安全設計を行なうための日本の各規格も国際規格との整合化が進んでいます。海外への輸出時だけではなく日本で適用されるJIS規格や業界規格も、ISO/IECをベースに安全設計の考え方が盛り込まれてきています。

国際安全規格 (ISO/IEC)

